

ポストソビエトロシアにおける 社会的不平等のネットワーク*

0. コレニコワ**

(訳：林 裕 明)

1. 論文の目的
2. 不平等システムとしてのロシア社会
3. 「社会的不平等のネットワーク」とは何か
4. 不平等のネットワークの社会的特質
5. 住民の評価にもとづく社会的不平等の公正・不公正
6. 不公正な不平等—社会問題の「束」の存在
7. 矛盾した不平等—社会における矛盾した役割
8. 公正な不平等は人々の行動に刺激を与える
9. 結論

1. 論文の目的

本稿の目的は、不平等分析に対するネットワークによるアプローチの本質を明らかにし、ロシア社会における「社会的不平等のネットワーク」現象の形態を示すことである。

2. 不平等システムとしてのロシア社会

どのようなタイプの社会もその特性を反映する一連の不平等を有している。ソ連崩壊後のロシア社会では、格差・社会階層分化のプロセスが開始され、現在も進行している。それはロシアの多様な社会集団間における不平等の増大をともなっている。この過程は多数の多様な「格差の軸」、つまり多様な住民グループの生活の場や労働支払い水準その他にかかわっている。その結果、ポストソビエト社会には多様な社会的不平等のネットワークが浸透していることが明らかになっている。

3. 「社会的不平等のネットワーク」とは何か

多様な不平等はロシアを含めた現実の社会で相互作用し、単一のネットワークを形成している。この「ネットワーク」がきわめて複雑な構成をしており、それを経験的に描くこと（統計データにもとづいて）が困難であることは明らかである。したがって、実地に研究することができるのは、この「ネットワーク」の個々の構成だけである。性別や年齢、所得水準、教育や居住地、生活様式その他にしたがったロシア住民の格差である。所得の不平等と他の不平等との相互関係は「枠の外」に残っている。しかしながら、こうした相互関係は存在している。しかも、それが社会システム全体の特徴、つまりその堅固さ、安定性、固定性、効率性を決定している。不平等の相関は単純で分かりやすい現象にもとづいている。金融、健康、住宅条件といったすべての不平等において同じ人々がかかわっている。なぜなら、どの不平等の担い手もロシアの住民であるからである。かれらは社会の多様な「細胞」にしたがって再分配され、それによってかれらの間の不平等をひとつの目標に束ねている。この全体こそが「不平等のネットワーク」である。個々の不平等がこのネットワークの要素である。例えば、家族の状態、物的状況、雇用の特徴、教育水準、市民活動その他である。多数の不平等が社会をあたかも「貫いて」おり、その独自のネットワークを構成している。

どのネットワークにも独自の不平等が存在しており、それは以下の3つの点によって形成されている。

- 1) 自然史的に、住民の特徴が変化する過程において。例えば、ジェンダーや領域の格差である。
- 2) 国家の政治的方針、その経済・社会政策があたかも「上から」実現される過程において。例えば、私企業の労働者と公務員との、オリガルヒと資産を所有しない大衆との不平等である。
- 3) 大衆の行動モデルが変化する過程において。例えば、土着の住民と外来の住民との不平等や、合法的に働く人々とヤミで働く人々との不平等は、人々がさまざまに行動する結果として生じている。

ネットワーク内部の不平等の関係の親密さも多様である。例えば、「権力」と「所得」という基準による不平等は、「年齢」と「労働上の地位」の基準による不平等と同様に、密接に関係している。このことは、ある不平等の内部で人々が占めている地位に、他の不平等における位置が依存していることを示している。例えば、年齢の不平等ではもっとも若いグループに入る人の場合、労働における不平等においても自動的に「管理職」に入ることはなく、低い地位の労働者グループに入ることになる。多様な不平等の相関の結果、人々は複雑なネットワークの内部にいる。すなわち、同じ人々が多様な不平等の内部に入っており、当然ながら、多様な不平等の中での地位によって区分されている多数の多様な社会

集団の要素に入っている。

どのように社会のネットワーク構造に浸透していくのか。それをどのように説明しうるのか。この課題を解決する重要な手段は住民へのアンケートである。そうであるならば、どのような基準で人々が多様な不平等を評価しているのかを見積もらなければならない。「公正か公正でないか」が評価の根本的な基準のひとつである。人々はある不平等を公正か公正でないか評価して、社会的不平等のネットワーク全体の状況を評価している。

4. 不平等のネットワークの社会的特質

ポストソビエト社会に特徴的な社会的不平等のネットワークには、以下のような特徴が存在している。第一の特徴は、不平等の起源が多様であることである。そこには二種類の不平等が含まれている。1) ソ連崩壊後に生じた新しい不平等、2) ソビエトシステムから引き継いだ不平等である。例えば、都市住民と農村住民との格差はソ連期にも存在した。しかし、不平等のネットワークは大規模に新しくなった。例えば、経営者と雇われ労働者との間の所有関係における不平等や、住宅を所有している人と所有していない人との不平等などである。ロシア社会の不平等ネットワークの形成に基本的な貢献をもたらしたのは、ソ連崩壊後に生じた新しい不平等であった。

第二の特徴は、不平等の独自性の度合いが多様であることである。記述されたシステムには普通の市場経済国にとって伝統的な不平等（経営者と雇われ労働者との不平等といった）と同時に、例えば、合法的な労働者と「ヤミ」の労働者との不平等といった伝統的でない不平等も存在している。

第三の特徴は、不平等の激しさの程度が多様であることである。

ロシアで生じたこのネットワークの要素である他の不平等の特徴も挙げるができる。例えば、多くの他の国と異なり、短い歴史的時期に生じた市場的不平等はロシア住民になじみがなく、不自然なものであった。人々は準備ができていなかった。というのも、大多数の人々が資本主義システムで生活するというしかるべき社会的経験を有していなかったからである。

5. 住民の評価にもとづく社会的不平等の公正・不公正

ポストソビエト社会の不平等システムに対する人々の関心を説明するため、アンケート調査を実施した。回答者に以下の質問をした。「多様な社会集団間の不平等について、以下のうちどれを公正と考え、どれを過度のもの、不公正なものと考えますか」。

得られた評価から、大多数の回答者は現在形成されている不平等のシステムを不公正と受け取っていることが示された（表1参照）。このことは、ポストソビエト社会で形成され、ロシア住民がそのうえに存在する不平等のネットワークが、人々の生活機能を妨げ、否定的影響を与えていることを明白に示している。なぜ人々はある不平等を公正と考え、他の

不平等を不公正と評価しているのか。評価の基礎に何があるのか。

表1 不平等に対する人々の関心 (単位：%)

不平等	公正 (%)	不公正 (%)	合計
高級官僚と大衆との間	14	86	100
都市住民と農村住民との間	35	65	100
高給労働者と低賃金労働者との間	28	72	100
働いている人と働いていない人との間	64	36	100
私的商業企業労働者と国営企業労働者との間	33	67	100
企業経営者と雇われ労働者との間	42	58	100
高等教育を受けた人と受けていない人との間	67	33	100
合法的に労働している人と「ヤミで」不法に働いている人との不平等	26	74	100
ロシアと他の民族との間	29	71	100
昔からロシアに住んでいる人と移住して来た人との不平等	41	59	100
持ち家や不動産を所有している人と共同住宅に住んでいる人との不平等	27	73	100

6. 不公正な不平等—社会問題の「束」の存在

86%の回答者が、高級官僚と大衆との不平等が現在のロシア社会における主要な不公正であると考えている。この不平等はかなりの程度経済的特徴ではなく、政治的特徴を有している。不平等は「上層」と「下層」との大きな社会的距離を示している。これはまさに新しいタイプの不平等である。というのは、政治的、社会・経済的行動のタイプゆえに「上層」は、党—ソビエトエリートが示した行動様式と比較して異なったものとなったからである。こうして、ロシアの資本主義という条件下で形成された基本的な不平等は、資本家と雇われ労働者との経済的不平等（当然、資本主義社会の）ではなく、高級官僚（高度な国家運営を実現する）と大衆との政治的不平等である。新しい支配階層が誇示する集団のエゴイズムに対して、大衆は最大限に権力から疎外されている。対立の本質は、ロシアの権力が国民の見解を尊重せず、その利害を考慮せずに、所得を手にする手段として国家構造を利用しながら、自ら作成した法律のもとで生活していることにあり、もっとも重要なものとして社会における自らの役割を遂行していないことにある。

したがって、他の不公正な不平等の大多数に改革の何らかの欠陥が存在している。改革は大多数の住民のためではなく、「上層」のためや「上層」の利害のために行われた。

ロシアの改革の目的に所有の変革、労働者のモチベーションや労働態度の変化が含まれていたことは自明である。その結果、ロシアに相当数の非国家経済セクターが形成された。そこでは給料水準の上限が撤廃された。同時に、国家セクターでは政府決議により給料に

に対する規制が継続された。この変革の結果、2種類の不平等が出現した。1)私企業労働者と国営企業労働者との不平等、2)高給の労働者と低賃金労働者との不平等である。こうした不平等はどのようなものか。

この不平等の評価がもたづいている主要な特徴は、市場改革のおかげで人々が手にした職業選択の自由である。他方、この不平等の基礎にある社会問題は労働者の状態に深すぎる断裂を生んだことである。この断裂は、第一に、国家セクターから私的セクターへの労働力の流出に刺激を与え、第二に、国家セクターの低水準の給料が私的セクターの給料の増大を押しとどめている。他方、第三に、この断裂を縮小するため、国営企業労働者や公務員に副業に従事させ、多様なヤミ・非合法活動に手を染めさせるように強いている。

専門家の評価で経済の少なくとも半分が「ヤミ」に存在するとされ、大部分の非経済領域（教育、医療、遵法機関、学術、文化その他）がヤミの手法で商業主義化された現代ロシア社会で、合法的に労働している人の間にも、非合法・「ヤミ」で働いている人々の間にも、文明国にとって不自然な不平等が形成された。実際は、ヤミ・不法活動にかかわる社会集団の物的状況は合法的なそれを上回っている。ここにはおそらく納税回避や不法な経営や賄賂の受け取りによって手にした追加的所得が存在しており、またヤミの手法によって手にした特殊な特権、買収された代議員の地位や学術博士の学位など一定の職務へのヤミの任命が存在している。

ヤミ経済活動が相当の規模で行われている状況下、例えば、脱税は市民にとって当たり前のことになり、税の回避方法を作成し実現するサービスに尽力する専門の会社も始まった。会計や会計監査の専門的スキルは「汚れたお金」を実行する能力によって決定されている。ヤミの不平等の大衆的性格が社会におけるヤミのプロセスの強まりを物語っている。こうして、納税額の縮小が社会的領域の組織の予算からの資金提供を縮小している。したがって、幼稚園、小学校、病院、警察などの経営は、サービス支払いにおける多様なヤミの手法という形で、直接に住民によって肩代わりされている。

概して、人々は合法的に働いている人々と非合法、「ヤミ」で働く人との不平等を不公正だとみていることをアンケートは示した。この不平等に「反対する」理由は、「ヤミ」で働く人々は法律に違反しており、それによって社会から盗みを働いていることにある。「支持する」理由は、ロシアでは合法的に大金を稼ぐ可能性はないからである。ヤミ経済や犯罪件数の規模の大きさは、ロシアで不平等が作用しており、人々はとくにヤミの行動様式を選別していることを示している。

それぞれの不公正な不平等の根底にあるものは人々の生活機能にとって緊急の課題である。現代ロシア社会において多くのものがこうした不平等を形づくっており、したがって社会問題も多くの要素から成り立っている。

7. 矛盾した不平等—社会における矛盾した役割

大多数の住民は市場改革によって生み出された新しい不平等のどれも公正なもの、社会に不可欠なものとは評価していない。基本的な市場の不平等、つまり経営者と雇われ労働者との不平等、簡単に言うと資本と労働との不平等について、42%の回答者は正常なもの、当然のものと受け取っているが、58%は不公正なものとして受け取っている。この矛盾の原因はどこにあるのか。

第一の原因は、ロシア社会において経営者は新しい社会層であることにある。かれらの中にはもっとも深い格差が存在している。経営者の中には、「オリガルヒ」と呼ばれる超巨大資本の代表者も、中級の経営者、つまり個々の会社や企業の所有者も、小経営者も含まれるからである。新しい経営者層を形成する主体に対する人々の関心は矛盾している。実際は、かれらの中には改革の流れに乗って本当に瞬く間に大金持ちになった人もおれば、仕方なく経営者になり、「生活のため」に稼いでいるものもある。

雑誌『フォーブス』のデータによると、ロシアで大金持ちの数は増加している。ロシアの大金持ちは初めて雑誌の世界ランキング97位に現れた。当時人々はロシアでもっとも金持ちの4人を知った。2001年に7人、2002年に17人、2003年には36人になった。今日ではロシアの大金持ちの数は世界第3位である。フォーブスの評価によると、ロシアの「オリガルヒ」の資本総額は1110億ドルに匹敵し、ロシアの国民総生産の4分の1を占めている。オリガルヒの大部分はロシアの天然資源の民営化によって現れた。同時に、大多数の住民は民営化から何も得ることがなかった。

大金持ちの経営者集団であるオリガルヒに対する人々の態度は概して否定的である。フツィオム-A（世論調査機関の1つ、現在の名称はレバダ・センターである。一訳者）によって行われたアンケートがこのことを証明している。例えば、「最近、外国で集められた世界でもっともお金持ちの人々のリストが出版され、そこに何人かのロシア人ビジネスマンの名前が含まれていました。われわれの国でこのような大金持ちの人々が出現したことについてどう思いますか」という質問に対する回答は以下のものであった。「誇らしい、満足である」が9%、「何とも思わない」が37%なのに対し、「不満である、憎らしい、立腹している」が51%であった（3%は無回答）。

人々が経営者と雇われ労働者との不平等に矛盾した評価を与える第二の理由は、ロシアにおけるビジネスが社会状況に与える影響にかかわっている。一面で、企業活動は最も重要な社会・経済制度であり、当然ながら、社会集団としての経営者は一定の社会的地位を得る権利がある。他面で、ロシアの資本主義の条件では、雇われ労働者はロシアの経営者が雇用者・所有者としての新しい社会的役割をいかに習得しているのかについて自身で体験している。給料の削減や不払い、労働の強制的に非公式な性格、病気休暇証明書に対する不払いなどといった、雇われ労働者の労働権侵害が広く普及した。同時に、大多数の

大・中経営者の豪華な生活様式、とくに消費・住宅行動、余暇の過ごし方などを、大多数の労働者は自らの低い給料や自分の生活様式と比較している。この比較の結果、経営者・雇用者に対する人々の否定的態度が形成されている。

フツィオム-Aのデータも経営者に対する矛盾した態度を証明している。「ロシアのビジネスマンや経営者の活動は、現在ロシアにとって概して有益と考えますか、害があると考えますか」という質問に対し、45%がロシアのビジネスマンの活動は有益であると答えたが、39%は害があると考えた（16%は無回答）。そのうえ、ロシアの大規模ビジネスの活動は中・小ビジネスよりも批判的に評価されている（表2参照）。

表2 「ロシアのビジネスマンや経営者の活動は、現在ロシアにとって概して有益と考えますか、害があると考えますか」という質問に対する回答（単位：％）

	有益である	害がある	無回答
ロシアの大規模なビジネスマンの活動	37	51	12
ロシアの中小ビジネスの活動	63	25	12

社会において経営者はどうあるべきか（と住民が考えているか）ということとロシアで実際にどのようにビジネスが行われているかということの間に矛盾が存在していることは明らかである。

ロシアに以前から住んでいる人と外来の人との不平等についても住民は矛盾をもって受け取っている。この不平等は多くの要因の結果発生した。国内および国外への移動の自由を開放したソ連の崩壊、民族紛争の激化、ロシアの領土にも旧ソ連共和国にも多数の「熱い地点」が出現したことその他である。多くの変化の総体が難民や強制移住・移民者という新しい社会集団の出現を導き、その結果、かれらの物的状況に土着のロシア住民と比較して深刻な差異を生んだ。

こうした不平等の原因はどのようなものか。ソ連には「出稼ぎ労働者」という社会集団が存在し、かれらと、例えば、主要な都市の土着の住民との関係は緊張したものであった。農村や辺境地域から都市へ働きに来た人々は出稼ぎ労働者と呼ばれ、かれらは分配された分け前、限度にしたがって居住登録を受け取って暮らしていた。しかし、かれらと土着の住民に対する国家の態度は不平等ではなかった。ソビエト国家は出稼ぎ労働者に対し一定の公約を実行した。仕事・住居を保障し、教育を促し、かれらが職を手にするのを促進した。1990年代になると、土着の住民にとっても、さらに移民にとっても状況は完全に変化した。主体的に生きる自由が双方に与えられた。したがって、この領域における公正を保障するために、一定の住民の見解では、土着のロシア住民にとっての保護メカニズムを作り、競争上の優位を守ることが不可欠である。

この不平等は人々にとってなぜ矛盾したものとなっているのか。

その原因は、政権が移民に対する態度を明確にしなかったことにある。一面で、ロシアでは至る所で働き手が必要であると宣言しながら、他面で、現実の移民政策は外来者に対する「冷たい対応」ともなっている。例えば、新しい市民法や滞在地にかんする登録不在の罰金といった今日作られたメカニズムは、移民をより悪い状態にするだけでなく、不法・非合法の状態に陥らせ、かれらをヤミセクターや時には犯罪セクターに追いやっている。不平等はしばしば対立という特徴も帯びる。移民が活発化しすぎると土着住民を刺激する。

8. 公正な不平等は人々の行動に刺激を与える

人々の見解によると、働いている人と働いていない人との不平等や高等教育を受けた人と教育を受けていない人との不平等は、社会において標準的で不可避のものである。実際、資格・教育レベルの上昇への志向、とくに高等・大学卒業後教育を取得することへの志向が、1990年代初頭からの学生数動態についての統計データから裏付けられている。ロシア連邦国家統計委員会のデータによると、大学生の数は1990/91年の51万4000人から2002/03年の103万9000人へ増加した。人口1000人あたりの計算では、大学生数は2.2倍に増加した。

同時に、回答者の約3分の1がこうした不平等を不公正だと考えている。不公正とみる根拠は国家政策の欠陥にかかわっており、とくに、1) 失業手当がきわめて低い水準であり、生活できないこと、2) 公務員、学術、医療、教育、遵法機関などの給料が低い水準であることにかかわっている。われわれのデータによると、高等教育の学位をもち、国営企業で働く人々は、私企業の労働者より平均して3倍低い額を手にした。高等教育を受け、国家セクターで働いている人々は、高等教育を受けていないが、私的セクターで働いている人々より1.8倍低い額を手にした。

すなわち、まさに国家が不平等の標準的な機能をゆがませている。こうした欠陥にもかかわらず、労働と教育は垂直的移動の「普遍的」な経路であり、大多数の人々がそれらをあてにしている。

9. 結論

ポストソビエト社会の不平等ネットワークは、不平等の相互作用による複雑なシステムである。人々は社会的な不平等ネットワークの主体として存在しながら、ロシア社会に対する道義的な評価を与えている。この評価は、改革の主要な肯定的帰結によって社会の多様な領域における人々の行動の自由が出現したというものである。否定的帰結については、新しい社会システムを貫く社会問題の統一的な「束」の存在が目の前にある。このシステムの主軸は高級官僚と大衆との不平等である。権力と大衆の分離が不平等の複雑なネットワークを生み出し、貧困、社会的保護の弱さ、ビジネスその他多くのものにとって悪い条件といった多くの社会問題がそこから「表面化」している。

注

* 本稿は、2004年11月1日に高根県立大学で開催された第32回北東アジア研究会での報告「ポストソビエトロシアにおける不平等のシステム」に加筆・修正したものである。また、本稿は北東アジア地域学術交流財団による共同研究「ロシアにおける生活水準と経済格差—経済社会学的接近にもとづいて—」（平成16～18年度、研究代表：林裕明）の研究成果の一部である。

**オリガ・アレクサンドロブナ・コレニコワ(Olga Alexandrovna KOLENNIKOVA)。ロシア科学アカデミー社会経済人口問題研究所・経済社会学部門・上級研究員。

キーワード 社会的不平等 ネットワーク 社会階層化 経済格差 公正な不平等
不公正な不平等 経営者

(Olga KOLENNIKOVA)